



能登やさしいこめづくり情報

令和5年8月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A は く い

早生収穫編

「適期刈取り」、「適切な乾燥・調製」で品質向上！！

1 生育概況と当面の管理

- ゆめみづほの今年の刈取り適期は8月17日～23日（中山間地：8月20日～26日）の予想となっています（8/8時点）。
- 7月21日の梅雨明け以降、高温となる日が続いています。今後も気温の高い日が続くことが予想され、**高温登熟年**（出穂以降、高温で経過）となる可能性が高いです。このような年は**乳白粒**や**胴割粒**の発生が多くなります。当面の管理としては、**刈取り直前まで適正な水管理**（①乾かさない！②ずっと溜めない！③早期落水しない！）を継続し、登熟の向上に努めましょう。
- また、中能登エリアでは、乾燥・調製の際の「もみ混入」や「肌ずれ」による**落等**が目立っています。適切な乾燥・調製を心掛け、品質の向上を目指しましょう。

2 刈取りまでの水管理

【ポイント 刈取り直前まで適正な水管理を継続しましょう！】

- 登熟期の水管理は、品質や収量向上に最も重要な管理となります。**間断通水**を刈取り直前まで継続しましょう。

【間断通水の徹底】

- ポイント① 乾かさない！** ⇒ 3～5日間隔を目安に通水し、**土壌の飽水状態を保ち**ましょう。
＜注意＞日中の気温が30度を超える日が続くときは、できるだけ**夕方に通水**しましょう。
- ポイント② ずっと溜めない！** ⇒ **気温が高い日中の湛水状態**は根の機能を低下させるため、**避け**ましょう。
- ポイント③ 早期落水しない！** ⇒ 早期の落水は未熟粒や胴割粒の発生を助長するため、**収穫直前まで通水**をしましょう。

※台風が発生した場合は…台風の接近によりフェーン現象（熱風や高温）が発生する場合は、入水し一時的に湛水状態を保ち、稲体の急激な乾燥を防ぐようにしましょう。フェーン現象が治まったら、湛水状態をやめ、排水しましょう。

3 刈取り適期と刈取り作業

【ポイント 籾黄化率や籾水分を確認し、刈取り遅れはしない！】

(1) 刈取り時期について

- 高温登熟年は、**籾の黄化が早くなるため刈取り適期が短く、刈り遅れると「胴割粒」や「着色米」が発生**しやすくなります。

【高温登熟年の刈取り目安】

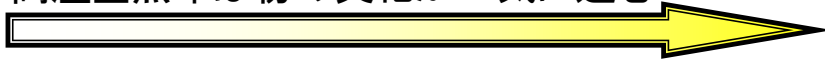
- 刈取り適期の籾水分は25～20%**で、**20%を下回ってから収穫**すると**胴割粒が発生**しやすくなります。
[参考] ライスタ(「籾」モード)の場合、籾水分30%以下で測定可能となり、1日あたり0.5%程度減少します。
- 籾黄化率80%から収穫を開始**し、刈り遅れないよう**黄化率85%までに収穫を終え**ましょう。
[参考] **籾黄化率**とは……1穂の全籾のうち、緑色素が消え黄色く変色した籾の数の割合のことです。
- 高温登熟年における**早生の刈取り適期の目安は、『登熟積算温度』で900～950℃**
[参考] **登熟積算温度**とは……出穂期以降の日平均気温の積算で算出できます。



【高温登熟年：籾の黄化程度による刈取り適期判断の目安】

籾の黄化程度	30%	40%	50%	60%	70%	80%	85%	90%
刈取り適期	16～17日後	13～14日後	10～11日後	7～8日後	4～5日後	1～2日後	適期	収穫終了
籾水分	(36.0%)	(33.0%)	(30.5%)	28.0%	26.5%	25.0%	23.5%	20.0%

高温登熟年は籾の黄化が一気に進む



収穫期間



【管内早生品種の刈取り適期の目安】

品 種	出穂期	刈取り適期	(前年の刈取り時期)
ゆめみづほ	7月13日～17日	8月17日～23日 (中山間地:8月20日～26日) (籾黄化率 80～85%)	8月18日～22日 (中山間地:8月21日～25日) (籾黄化率 80～85%)

刈取り適期は、田植え時期や出穂期、生育条件、天候等によって前後します。

上記の刈取り時期は目安とし、『籾黄化率』や『籾水分』を確認した上で、適期収穫に努めてください。

籾黄化率80%の穂のイメージ



(2) 刈取り作業の注意点

① 刈取り前に、ほ場内のクサネムを必ず除去しましょう。

・クサネムの種子(右の写真)は、ライスグレーダーで取り除けないため、異物混入で落等の原因となります。



クサネム種子(黒い粒:左)

② 早期に倒伏した部分や早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、別刈り・別乾燥で調製しましょう。

・早期に倒伏した部分は乳白粒等の未熟粒が発生しやすく、水不足等で早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、胴割粒・未熟粒・着色粒が発生しやすくなります。

③ 刈り取った籾は、速やかに乾燥機に張り込みましょう。

・刈り取ってから**4時間以内に乾燥機へ張込み、通風**しておくことで、ヤケ米の発生を防止することができます。
 ・水分が高い籾はヤケ米の発生を助長するので、**降雨直後などは無理に収穫を行わない**ようにしましょう。

【注意!】 エクシード粉剤DL・エクシードフロアブルは「収穫7日前まで」、キラップ粒剤「収穫14日前まで」など必ず、散布後日数を確認し刈取してください。

4 乾燥・調製作業

(1) 乾燥作業の注意点

【乾燥機の停止水分判定表】

① 急激な乾燥や高温乾燥は避けましょう。

・乾燥は**35℃以下で、乾減率0.8~1.0%/時程度**としましょう。

② 籾水分のムラ、余熟乾燥や戻り乾燥に留意しましょう。

・**籾水分は、14.5~15.0%**になるように仕上げましょう。
 ・籾の水分過多では「肌ずれ」、過乾燥では「胴割粒」が発生しやすくなるので注意しましょう。

・**高温登熟年は、適期に収穫しても籾の水分にムラがあるため、『2段乾燥法』**を用いましょう。

〔参考〕2段乾燥法とは……
 籾水分を一旦、18%程度で乾燥機を止め、5~8時間おいて調湿した後に、14.5~15.0%に仕上げ乾燥を行う方法のことです。〕
 ・青米粒の混入割合によって、乾燥機を止める時の水分や停止後の水分変化が異なるため、注意しましょう(表を参照)。

100粒中の青米粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
0~5粒	15.5~15.1%	乾く(下がる)
6~10粒	15.0~14.6%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.5%	戻る(上がる)

(2) 調製作業の注意点

① 事前に籾摺機の点検整備を実施しましょう。

・「肌ずれ」、「胴割粒」の発生を抑えるため、籾摺前に**籾水分(14.5~15.0%)**を確認しましょう。
 ・作業開始前だけでなく、**作業中も籾摺りの程度をこまめに確認**しましょう。
 ・籾が混入している場合は、籾の流入量・ロール間隙・選別機の調整を実施してください。

② ロールの間隙は、籾厚の1/2が目安です。

・ロールの間隙を締めすぎると「胴割粒」や「肌ずれ」、広いと「もみ混入」が発生しやすくなるので注意しましょう。
 ・ロールが摩耗・劣化している場合は、交換してください。

③ ライスグレーダーの網目のサイズはLL網(1.9mm)を使用し、整粒歩合80%を目指しましょう。

ヤケ米

生籾の長時間貯留はしない!

胴割米

仕上げ乾燥は、ゆっくりと行う。(毎時0.8%以下の乾減率が最適)

過乾燥米

仕上げ水分は、14.5%~15.0%とする。

【適期刈取、適正な乾燥調製作業の徹底!!】

- ◎ 胴割粒の発生防止のため、収穫作業は籾黄化率80%から開始し85%までに終わらしましょう!
- ◎ ヤケ米発生防止のため、刈り取った籾は速やかに乾燥機に!!
- ◎ 無理のない乾燥調製作業で、胴割粒、肌ずれ、籾混入の発生防止!!!